いぶり腎泌尿器科クリニックの広報誌 [いぶり+LIVE=IBULIVE]

いぶりぶ

NO.51
2019年 秋号

仲山 明宏 副院長インタビュー
腎泌尿器科のオペの現場から

最新治療事情
放射線科編

研修レポート
第４回バスキュラーアクセス管理研修に参加して

いぶ腎フレッシュマン
新人紹介

管理栄養士のアイデアレシピ
実りの秋～旬の食材を使って～

インフルエンザ予防接種のご案内

診療時間のご案内

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 08:30～12:00	●	●	●	●	●	●	休診
午後 13:00～16:30	●	●	休診	休診	●	休診	休診

WWW.IBUJIN.COM

安住・石掛管理栄養士の
アイデアレシピ
実りの秋～旬の食材を使って～

『鮭の香味焼き』

《材料～1 人分》
鮭……60 g
パン粉……5 g
バジル粉……0.2 g
粉チーズ……1 g
サラダ油……2 g
食塩……0.2 g
こしょう……0.01 g
赤ピーマン……5 g
黄ピーマン……5 g
かいわれ菜……2 g
レモン……10 g
玉ねぎ……20 g

《作り方》
(1) パン粉とバジル粉、粉チーズを混ぜ、塩こしょうをした鮭の両面にまぶし、フライパンで軽く焼く。
(2) (1) をオーブンで 4 分程焼く。
(3) 赤・黄ピーマンは小さめの乱切りにして、フライパンで炒める。
(4) 玉ねぎは薄くスライスし、水にさらしておく。
(5) 皿に玉ねぎを敷き、上に鮭を載せ赤、黄ピーマンを添える。スライスしたレモンを飾り、1cm 程度の長さに切ったかいわれ菜を散らす。

『さつま芋ご飯』

《材料～1 人分》
精白米……90 g
黒いりごま……0.1 g
食塩……0.2 g
料理酒……2 g
さつま芋……50 g
水……110 cc

《作り方》
(1) さつま芋は 2cm ほどの大きさに切り、水にさらしてから茹でる。
(2) 釜に米、水、料理酒、塩を加え炊飯し、炊き上がったらさつま芋を載せて蒸らす。
(3) 器にご飯を盛りさつま芋を形よく盛り付け、黒いりごまをふる。

『米茄子の味噌チーズ焼き』

《材料～1 人分》
米茄子……80 g
味噌……5 g
みりん……2 g
サラダ油……2 g
とろけるスライスチーズ…5 g

《作り方》
(1) 米茄子を厚さ 3cm 程度の輪切りにし、格子状に包丁を入れ、フライパンで両面を焼く。
(2) 味噌にみりんを混ぜたものを茄子の片面に塗り、上にスライスチーズを載せ、オーブンで 3 分ほど加熱する。器に載せパセリのみじん切りを散らす。

『ほうれん草と黄菊の和え物』

《材料～1 人分》
ほうれん草……40 g
菊のり……0.5 g
創味そばつゆ……2 g

《作り方》
(1) ほうれん草は茹でて 3cm 程度に切り、菊のりは熱湯に酢を加えて茹でる。
(2) (1) を創味そばつゆで和える。

『栗入りティラミス風デザート』

《材料～1 人分》
生クリーム……30 g
木綿豆腐……30 g
砂糖……5 g
ビスケット……5 g
栗甘露煮……5 g
ミントの葉……1 g
インスタントコーヒー（粉）…1 g
麦チョコ……2 粒

《作り方》
(1) 生クリームに砂糖を加え泡立て、茹でて水切りした木綿豆腐を合わせる。
(2) インスタントコーヒー液を作り、予熱をとっておく。
(3) ビスケットは適当な大きさに割り、コーヒー液に浸す。
(4) 器に (1) を盛り、次にビスケットと荒きざみにした栗を散らす。その上にまた (1) を載せ、麦チョコとミントの葉を飾る。

レシピ作成：いぶり腎泌尿器科クリニック管理栄養士　安住ノリ子　石掛恵理

編集後記

９月になると昨年のブラックアウトを思い出します。
２日間の停電により、160 名の透析患者様を近隣の総合病院に移送、透析治療終了後に患者様を送り届けて帰院したのは、午前０時を過ぎていました。
今年は台風により千葉県が大停電、身につまされますね。(Y)

発行：いぶりぶ発行委員会　■発行／令和元年 10 月 10 日
■4 月・7 月・10 月・1 月の年 4 回発行　発行責任者：横井 浩
伊達市梅本町 2 番地 15　いぶり腎泌尿器科クリニック内　TEL: 0142-21-1400
※本誌掲載の写真・記事無断転用は固くお断りします。
「いぶりぶ」のバックナンバーは、当クリニック HP でご覧いただけます。
http://www.ibujin.com/

医療法人社団
いぶり腎泌尿器科クリニック

いぶ腎フレッシュマン
新人紹介

斉藤さち子
（さいとう　さちこ）
病棟看護師

8月1日に看護部に仲間入りした斉藤さんは、豊浦町礼文華の出身。テレビドラマ『ナースのお仕事』に憧れて、看護の道を志しました。
現在看護師歴９年になる斉藤さんのモットーは、何よりも「患者様第一」であること。病気の方の心に寄り添い、入院期間中、できるだけその方らしい生活ができるようにサポートして差し上げたい、と話します。

趣味は何ですか?
冬はスノーボード、夏は登山やジム、旅行など、アクティブに体を動かすことが大好きです。最近では定山渓に旅行に出かけて温泉を楽しんできました。看護師は体力的にハードな仕事なので、食べることも大切にしています。特にスタミナをつけたいときは、やっぱり焼肉が一番ですね！

今後の抱負を聞かせてください。
専門病院の看護というのは、様々な病気を扱う総合病院と違って、疾患への理解や関わり方が非常に深いな、と感じています。これまでの看護の経験も生かしながら、専門的な部分をしっかりと勉強していきたいです。患者様お一人お一人の心に優しく寄り添いながら精一杯頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

インフルエンザ予防接種のご案内

接種期間：令和元年 10 月 15 日～ 12 月 27 日

一般の方　[1 回] 3,600 円
※ワクチンがなくなり次第、終了とさせていただきます。
※次回受診日にあわせて接種することをお勧めいたします。

伊達市・壮瞥町・洞爺湖町・豊浦町にお住まいで予防接種を受ける日までに 65 歳以上になる方。
上記４市町にお住まいの 60 歳～64 歳の方で心臓病、腎臓病、呼吸器の機能に自己の日常生活が極度に制限される程度の障がいを有する方。
[1 回] 1,500 円

同４市町にお住まいの 65 歳以上で生活保護世帯の方と世帯全員が市民税非課税の方。
＜各市町発行の生活保護受給者証、非課税証明書（手数料が必要です）を当日ご持参ください＞
無　料

※当院の接種対象患者様は 15 歳以上の成人の方のみとなります。ご不明な点などございましたら、職員までお問い合わせください。

インフルエンザ予防には、流行期（12月下旬～3月）前に予防接種を受けることが大切です。接種を受けてから抵抗力がつくまでに二週間程度かかるので、12月上旬までには予防接種を済ませましょう。マスクの着用、うがい・手洗いなど日常生活での対策も忘れずに!

interview

仲山明宏副院長インタビュー

腎泌尿器科のオペの現場から

副院長　仲山明宏

最新設備を備えた当院の手術室では、年間およそ260件の手術が行われています。中でも腎臓・泌尿器のがんの症例数では、西胆振管内でも屈指の実績を誇っています。

今号では開院15周年記念特集の第3弾として、オペの現場で活躍する仲山副院長のインタビューをお届けします。

少数精鋭で抜群のチームワーク

当院の手術で一番多いのは膀胱がんで、全体の一割ほどを占めます。そのほかに良性の前立腺肥大症や、シャントの手術、腎がん等、様々な症例がありますが、ここ10年では前立腺がんの手術も増えています。

手術チームはドクターと看護師、技師で構成され、常に決まったスタッフで行っています。少数精鋭でチームワークがしっかりしているところが大きな強みだと思います。

最新の手術設備の重要性

今はいい機械を使えば、手術経験や技術が多少足りなくても、ある程度のきちんとした手術ができる時代になってきています。そういう意味では、腕を磨くことはもちろん大切ですが、より新しい機械を導入してゆくことが重要だと思います。

その点、当院の手術設備は常に最新の機械に更新しており、総合病院にも引けをとりません。ないのは「ダヴィンチ（※）」くらいですね。

手術の方法論的な部分は、すでに確立されており、大きな切開をしても内視鏡で手術をしても、生命予後そのものの成績に変わりはありません。しかし、短期の入院で元気な状態で帰れるためには、新しい機械でより侵襲（外科手術による切開や切除等の行為）の少ない手術をすることです。

高齢化が進み、高齢で手術を受ける方が増えれば、侵襲の少ない手術が今後ますます大事になってくると思います。

（※）米国で開発された内視鏡下手術用ロボット。ロボットアームを遠隔操作して手術を行う。

がんの手術と予防

当院でがんの手術を受けられる方は、70代が最も多く、続いて60代と80代です。

がん細胞というのは、元は普通の体細胞ですが、タバコの一酸化窒素や紫外線等の影響でDNAが壊れて、修復する時にがん化します。がん化してもはじめは自分の免疫でやっつけられますが、抵抗力が弱くなってきたりすると、がん細胞が増えてしまいます。

通常、歳をとると抵抗力や体力が落ちるので、がんになるリスクが高くなります。

①前立腺がん

様々な治療法があり、必ずしも手術ではなく、放射線治療も非常にいい効果が得られます。超長期成績がまだ出ていないため、若い方にはなるべく手術を勧めていますが、患者様のライフスタイルに合わせて治療法を選ぶことが可能です。

②膀胱がん

手術のほかに有効な治療法がほとんどないので、根治を考えた場合には、一にも二にも手術でしっかり切除します。早期であれば、内視鏡手術になるので短期間で退院できますが、進行している場合には膀胱を摘出する手術となり、1～2週間の入院が必要です。

膀胱全摘手術では、尿の通り道がなくなってしまうため、新たに別の尿路を作ります。最も一般的なのは「回腸導管」という方法で、回腸の一部を取って尿管を植え、そこにストーマを当てて、尿が溜まるようにします。5～6時間の結構大きな手術となります。

③腎がん

腎がんも抗がん剤がほとんど効かないがんのひとつなので、一義的には切除します。「ほかの病気でCTを撮ったらたまたま腎臓に腫瘍があった」等、偶然に見つかるケースが多く、また比較的早期のことが多いです。

予防のためにどのようなことに注意したらよいでしょうか？

- タバコを控える
- 適度な運動をする
- 免疫を強くする

膀胱がんは明らかに喫煙との関係性が指摘されています。実際に患者様の中にはヘビースモーカーの方も多いです。

週5時間以上運動している人は、がんになる確率が低いという説があります。

透析の患者様や、移植を受けて免疫抑制剤を飲んでいる方は、そうでない方に比べて明らかにがんの発症率が高いというデータがあります。

今後に向けてひとこと

小さな病院ですが、和気藹々とチームワーク良くやっているので、新しいスタッフも「雰囲気がいいから働きやすい」と言ってくれます。そういう「雰囲気のよさ」は患者様にも伝わる部分だと思いますので、今後も大切にしていきたいです。あとはやはり、医師として常に最新の知識や技術を吸収し、勉強し続けていきたいです。

副院長のコト

副院長　仲山明宏（なかやま　あきひろ）

1972年12月12日　栃木県那須烏山市出身
1997年北海道大学 医学部 卒業
同年 北海道大学医学部付属病院 泌尿器科 入局
以後、滝川市立病院、釧路市立総合病院などを経て、2002 年伊達赤十字病院泌尿器科に配属される。当時部長であった坪院長を「手術が格段に上手い外科系の怖い親分」と振り返る。2004 年開院時に副院長に就任。趣味は山行。体力勝負の手術のため、トレーニングも欠かせない。地域の学校に出向いて行う性教育講座では、気さくな語り口が思春期の男子中高生の心を掴んでいる。

私が紹介します！

安達 竜也（主任診療放射線技師）

最新治療事情－放射線科編

当院の最新医療と各科の専門技術をご紹介する新シリーズです。第1回となる今回は、診療放射線技師の仕事に迫ります。

多岐にわたる放射線科の仕事

放射線科の業務内容は、各種検査（X線撮影・CT・X線TV）と透視業務（OPE室・ESWL）、手術支援のための三次元画像作成などの画像処理、医療画像情報管理、医療被ばく管理、放射線医療機器管理など多岐にわたります。

昨年1年間（2018年1月－12月）の検査件数は、X線撮影3,571件、CT 2,248件、X線TV 197件、手術室Cアーム透視業務33件、ESWL透視業務58件です。現在3名の職員が日夜業務に励んでいます。

専門病院における放射線技師の役割とは？

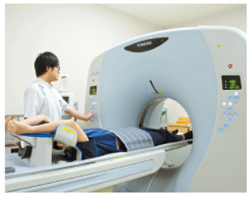
泌尿器科専門病院では、X線透視下による手術なども行われるため、診療放射線技師による手術時の放射線管理の役割も重要となります。X線透視下による腎結石・尿管結石の手術TUL(経尿道的腎・尿管砕石術)、腎瘻増設術、経皮的シャント拡張術(VAIVT)などの手術では、的確なX線透視手術支援を行うと同時に、適切に被ばく低減管理を行うよう常に緊張感をもって業務に努めています。

進化する放射線医療機器

現在の放射線医療機器は、技術の進化によって高度化しています。最新の医療に対応できるように、日々新しい撮影技術や専門的知識を身に付けていくことが必要となる仕事でもあります。大変ではありますが、常にやりがいを感じられる仕事だと思います。

患者様とのコミュニケーション大切に

検査に不安を抱く患者様に対しては、気持ちを和らげる気配りが大切であると考えています。そのため、患者様とコミュニケーションを図りながら、安心して医療放射線検査を受けていただける様に心がけています。



画像等手術支援認定診療放射線技師証を取得しました！

放射線科の主任を務める安達竜也技師が、公益社団法人日本診療放射線技師会が実施する「2019年 画像等手術支援認定診療放射線技師 認定資格試験」に合格し、9月1日付で認定証書を交付されました。

日頃から忙しく業務に励む傍ら、技師としてのスキルアップにも余念のない努力家の安達さん。昨年の「X線CT認定技師」取得に続く快挙となりました。

6月23日に東京大学医学部付属病院にて行われた試験には、全国各地から技師が参加しました。手術支援画像に関する幅広い知識と高い技術力が問われる難関を突破するため、安達さんは追い込みをかけて猛勉強したそうです。「今回の認定資格取得が、患者様への安全・安心な医療提供持続につながるよう努めていきたいです。」と笑顔で話していました。

第4回バスキュラーアクセス管理研修に参加して

8月18日に東京で行われた「バスキュラーアクセス管理研修会」へ2泊3日の日程で参加させて頂きました。

今回初めての道外出張ということで、当初は到着後に都内散策をしようかと考えていましたが、とにかく気温が暑く、外にいるだけで汗が吹き出し、「北海道から800km南下しただけでここまで気温が違うとは……」と思わず絶句しながら、居酒屋で夕食をとりホテルへ向かいました。

二日目は研修会当日。眠たい目を擦りながら何とか会場へ向かいました。長時間の講義を耐え抜いた御褒美として、東京ドームにあるビアガーデンでビール片手にから揚げを食べながら、今回の講義を振り返り、今後患者様へどのように貢献していけるか考えました。三日目はスタッフへのお土産を買いつつ、帰宅の途につきました。

さて、ここからは少しだけ研修会の内容をお話しさせて頂きます。バスキュラーアクセスの管理として、今回は主にエコー検査によるシャント血管の管理方法について学びました。

透析治療においてシャント血管は非常に重要で、そこから大量の血液を取り出し、身体の中にある尿毒素等を除去していきます。しかしながら、この血管が狭くなるなどの異常が発生した場合、血液が取り出せなくなり、治療が上手く出来なくなってしまいます。

そのための手段としてエコー検査を行い、機械の画面上に血管の断面図を映し出し、血管が狭くなっていないか、血液の流速や流量を見ることで血管の異常を早期に発見することが出来ます。

エコー検査では、調べたい身体部分に「プローブ」という機械を押し当て、そこから超音波を発生させます。すると生体内の血管壁などで超音波がはね返り、そのはね返ってきた超音波を画像として出力します。痛みもなく短時間での検査が可能であり、ベッドに寝たまま検査をする事が出来るため、透析前後や透析中にも検査をする事が可能となります。

まだまだ経験不足ではありますが、今後これらの技術・知識を最大限に発揮し、より良い透析を行えるよう努力してまいります。

佐々木 亨（臨床工学技士）